

4. 西山康雄（都市計画・都市危機管理）／東京電機大学教授（2002年4月27日）

谷 最初にこの研究の位置づけをいたしますと、伊藤（滋）先生が中心になってやられている国土開発研究所という財団があり理事長をやられているのですが、簡易収入だけではやれないので委託研究を請けようということになりました。ついては私はそこに磯村先生の時代から入っているのですが、私も含めて何人かの学者が研究評議委員という名前で、磯村栄一さんからそのまま伊藤先生に引き継がれて、その中で奥田先生がヘッドで私はその補佐をやれということになりました。しかし奥田先生が体調を崩されたみたいで私に話が回ってきまして、伊藤先生が別に理事長をやっておられる警察関係の社会安全財団なのですが、そこから内容は任せるということで委託を受けまして、都市全般の安全について調べようということになり始めました。例えばストーカー犯罪や放火などそういうことは専門でやられている方がいるのですが、都市全体の安全について調べようということとはあまりやられていないということで、清水建設に都市の防犯を専門にしている伊藤さんと元都庁にいた吉川さんという方と3人でやってみよう和大風呂敷を広げました。目的はどのようなところに問題意識があるかの意識調査なのですね。アンケートで一般市民の意識把握と、専門化の考えと、もう1つはメディアがどのように報道してきたかなどを主に新聞で調べて相関関係や問題意識の高いところ、問題意識が欠落しているところを体系図としてまとめてみようと考えています。そこで、専門化のお一人として西山先生に災害でも人為的なミスが重なるような災害と犯罪についてお話を伺いたいと思います。

西山 僕が非常に大事と思うのは自治体の首長の意識が大事と思うのですよ。その人達のリーダーシップとか、その人達がどれくらい常識として危機や安全に対する意識を持っているかによって全然違う。それを痛感するのが例の東海地震で名古屋あたりの一連の首長が強化地区に入れてくれと言っているけど、災害の時に自分がきちんとした役割を果たせば、緊急対応から復興までかなりの人の命が救えるとか財産を救えるから、そのために住民にきちんとした知識を持ってほしいという意識が全くない。それと天災というのは防ぎようがない部分と人為的対応によって被害が極限までとどめられる部分がありますよね。私は天災を防ぎようがないという前に、防ぎようがあるという意識を持つことがかなり大事だと思います。地震だって防ぎようがないのだけれど、科学技術庁が海の中に簡易型の探知装置を入れているのね。そういうネットワークが完成すれば同じ地震が起こってもその後の対応はかなり違うと思うのです。

谷 わかりました。まず質問としては、日本は安全な国として考えていらっしゃるかどうかということから話を始めたいと思います。

西山 簡単に言いますと、安全神話は崩壊しつつある、という前提にたっているんな議論をお話したほうがいいと思うのですね。

谷 ということは、以前は安全な国だったが今の日本は安全神話が崩壊しつつあるという風に考えていいのですか。

西山 先進国の中で日本、イタリア、アメリカの西海岸などは地震、大火、戦火など特に自然系の災害にみまわれてきましたよね。それは今でも変わらないけれど、むしろテロだとか防犯だとか、そういう意味ではここ5年から10年の間に急激に日本は変化してきているというのを実感として感じますね。特に安全というのは対応能力との関係で、事が起こったときに事を予知するか事が起こった時にどうするか社会そのものの対応能力は急速に落ちてきているのではないかと感じますね。

谷 日本が以前安全だったのは何が要因で安全であったと思われませんか。

西山 同一社会で人種的にもほぼ同じような人が住んで、同じような価値観で社会の目的だとか、人生の意味だとか生活の目標が非常に明確であったと。僕はよく海外に行くものですから、比較的そういう危機対応能力を持って日本で生活しているわけです。それで、昔笑い話をしていたのですが、途上国では首が上下にいたくなる。何故かという深さが分からない直径10cmぐらいの穴が空いていて、それを避けるために下を見て歩かなければならないのです。アメリカでは夜、誰が後ろでどのような状況で誰がいるのか分からないから大通りでも歩けないわけですね。僕自身も10年ぐらい前までそういうことを意識しないで過ごしていましたがね。例えば、ここ1週間間に起こったことで非常に小さな事ですけど、社会の危機に対する対応能力が薄れてきていると思うことは、自転車ですごいスピードを出して坂道を下るのね。他人を思いやったり、もしぶつかったらということを考えていたらあんなスピードは出せないわけ。例えばあと20年後の80ぐらいの時に自転車にまともにぶつけれたら今はまだ体重があるからいい

かもしれないけれど、死に直結すると思うのですね。そういうある事態を予測する予知能力、対応能力がだんだん薄れてきていると、災害がどんどん起こるだろうし、安全というのはどんどん薄れてくると思います。かつて共同体のマイナス面の規制みたいなものがあるんだけど、お互いがお互いのことを思いやったり、お互いいざという時に協力し合うような日常ネットワークがあったわけです。そういうものがどんどん薄れて予知能力事体も次の代に伝わっていないというのはかなり問題だと思いますね。

谷 私の大学は自転車通学がすごく多いのですが、自転車と自転車、自転車と歩行者、車とも事故が多いですね。逆行したり、信号守らなかったりが原因で。

西山 大都市で生活しているから思うのは、10年前まではここまで好き勝手なことをする異質な若者はいなかったわけですよ。名古屋というのは建築協定でワンルームマンションに反対しているのだけれど、若者のワンルームと私の戸建ての家族を形成しているのと、夜遅く車で帰ってきたり、夏なんか夜中に大きな声で話したり、朝もフリーターみたいな連中が5時頃から車を走らせてたりしているから、非常にアメリカ的で生活行動が全然違う状態になってきているわけですよ。そういうのを迷惑とみなせない価値観を持っているわけね。だから非常に日本人の間で欧米的な、これだったら若者のワンルームを排除した方がはるかに安全で落ちついていると思うことがありますよね。もう1つは中国人や東南アジアの人達が非常に増えてきて、彼らの価値観がものすごく違いますよね。例えば、地下鉄の中で極端に大きな声で話していて、それを注意してもせせら笑いして全然聞かないし、六本木に行く女の子たちに注意しても全然相手にしないし、それから原宿で問題になっている竹下通りで外国の人が客引きをやっているわけですね。それを注意しようものなら注意した人との間ですごい剣幕で言い合ってますよ。それから車でも荷物搬入を、全くお客さんが歩いていることを意識しないでやっていますよね。そういう異なる価値観、異なる行動とる人が最近の社会の習性だと思いますけど、かつての単一民族の同じような価値観を持っていてコミュニティを規制していた。そういうたがが外れつつあるというのが僕の実感ですね。

谷 だいぶ今話に出てきたのですが、近年の安全が脅かされてきているということの原因、理由はどのようなことが考えられますか。

西山 天災という話に絡めて言うんですけど、僕は災害や安全をどう見るかということに関わると思うのですが、どうしようもないというのは、さきほどの天災的なこともあるだろうし、幾つかあるわけですけどね。今の時代の状態で特に強調しておきたいのは、どうにかなるというそういう部分が非常に多いにも関わらず、それに対して意識的に対策を打ったり、アイデアを考えたり、予算措置をしたりが体系化されていない、考えられていない、学問化されていないなど、そちらの方が非常に強く感じますね。だからある意味、安全や災害は非常に相対的なもので、災害が起こっても、例えばシベリアのような人がいないところで起れば人災は被害がないわけですからどういうことないわけですよ。特に日本のように高密度社会ではそういう災害そのものに加えて、それに対する、どうにかなるといった対応能力の方をきちんと押さえておかなきゃいけない。同じマグニチュード8のものが起こっても。

谷 そうですね。地震なんかいい例ですね。起こった場所によって大被害に遭ったり何にもなかったり。

西山 それから、相対的な公式、すなわち「安全＝どうしようもない部分＋どうにかなる部分」というもの。どうにかなる部分の中の主要要因が事態に対する対応能力だと思うのですよね。事態の対応能力の衰えは非常に感じますよね。例えば、本当に対応能力があって皆が社会に対する関心があったら、今の時代日本で都市暴動が起こっても不思議ではない。豊かさの部分もありますけど、これだけいいかげんな政策をやってそれで預金が十何年間、ほとんど金利が0に近くて、生活のある部分に非常に不満があるわけですよ。だから、都市の暴動だとか都市のテロだとか非常に貧困な社会不安を自らの生活に抱えている人達が起すものかもしれないけども、豊かな社会だっただんどん階層分離が始まっているわけで、そういう恵まれない階層の人達が暴動を起してもおかしくない。暴動がないのは幸せだけれど、逆にそれは危機に対する意識のなさとか、危機を危機と考えない、あるいは危機に対する能力すら失ってきているのではないかと感じます。そういう現象であるのではないかと思うわけですけどね。例えば欧米の都市暴動でマイノリティグループの貧困階層の黒人が起すのは、社会全体が問題ではなくて一部分の問題だから被害がどれくらい大きくても局所的な階層だからそれほど深刻な問題と捉えられていないわけですね。一番怖い都市暴動というのは、80年代のイギリスでの都市暴動は貧しい白人の中間的なレベルの暴動だと思うのですけどね。さらにその上に都市の中間層の白人が起した暴動は本当の危機で、ほとんど革命に近いと思うのですね。面白いのは貧困の問題が背景にあると思うのですが、サッチャーはそれを危機と感じて、

それを家庭のしつけの問題と考えたわけね。だけど日本は安全という面からは非常に危機はあるし迫っているのだけれど、それを感知する、対応するという点では、それこそ危機的な状況であると僕は感じますね。

谷 ヨーロッパではそれを極右政党がだいたい吸収しているみたいでありますね。

西山 こんどのフランスだってそうですよね。日本はそういうのが政策化されていないですよ。

谷 そうするとそういう状況が進行しているわけですけども、このまま放置するとどんなような状況が予測されるのでしょうかね。

西山 今、安全でもうひとつ非常に大事なことは、災害の多様化というのがあると思うのです。災害というのは思いもよらないが、大災害といっても予知できて、だいたいこの程度の種類のこの程度の規模の、この程度の種類の災害が起こると予知できていけば大災害にならないわけですね。そういう意味で西欧型の災害があるとすれば、都市型のテロというのは日本でも起こり得ますよね。今度のニューヨークの事件では一説によると原子力に突入する可能性もあったわけですよ。そのように非常に災害が多様化しつつあるというふうに思いますよね。戦争は中国と北朝鮮の問題はありますけど、今のところ災害の種類で一番コントロールできているもの、もうほとんど日本にとって考えなくてもいいような状況で大規模戦争はもうほとんどコントロールする状況と考えていいでしょうね。それから災害で比較的昔に比べてコントロールしつつあるのが地震ですね。これも予知のほうで努力しているし、それから法律も作っているし、それから95年の阪神淡路もあったしね。それから地震よりもっと怖いのは、地震の時の津波と水害の問題だと思うのです。去年か一昨年に名古屋で水害がありましたよね。あの時に驚いたのは台湾地震と同じなんですけど、いざという時の一番の防衛拠点で、対応能力のレベルがあつてどんなことが起こっても国土庁や首相官邸が潰れたら駄目なように、絶対倒れてはいけない建物があるわけですね。いろんな地域では公共施設の市役所、役場から小・中学校に至るまで災害の時に指揮する拠点だし災害の避難場所になるわけですよ。ところが、名古屋の水害ではそれらの施設が水に浸かっちゃたわけね。だからそういう水害の歴史を知らないとか、それから日本にとって非常に大事なものは、川が非常に暴れていたこと。それを川が自然地形で水のある所まで集約するような形が決められていたわけですが、それを戦後の高度成長期にずいぶん削って区画整理みたいなことやって、自然が持っていた水害のコントロール能力を人為的にかなり壊したのではないかと感じがするのですよね。水害という問題はもう1回新たな観点から全体として見直す必要があるのではないかとこのころにありますね。それから戦争、大火、地震や津波、水害とは全く違うレベルで都市のテロの問題や、原子炉の安全の問題をきちんとした安全対策などをやる専門家が必要だと思えますね。

谷 今おっしゃられている話は私も非常に同感で、今までは科学技術で問題を解決してきて、その科学技術が進歩して人口が増えている限りはある程度マネージブルだったものが、科学技術が停滞したり人口が減ってくることによって維持できなくなるってものが非常にあるのではないかなと思います。今おっしゃったみたいに、治山、治水はダムでやってきたわけですけど、ダムは造り続けるわけにはいかないので、そうすると古くなったダムが地震で壊れたり、人間が足りなくて技術レベルが下がっているからシステムが起動しなくなったり、原子炉の問題は結構危険な話があるのですよね。トップは今のほうが優秀かもしれないけれど、昔の中堅技術者と今の中堅技術者を比べると明らかにレベルの差があると誰もが言うわけですね。そのトップは変わらないかもしれないけど、あるいはアメリカ型の教育にしてトップを優秀にするのはいいのですけれど、一般レベルが下がったらシステム維持できなくなってしまいます。

西山 そうですね。危機管理の発想というのは軍の発想でもあるのですけど、そういう発想と日常生活は別のものであるという意識が非常に強いです。日本の場合、今まで防衛や自衛隊などはタブーにしていますよね。それから自衛隊の中でも戦争を知っている世代の人達がだいたいもう引退しているから、幹部の発想やリーダーシップが違いますよね。僕は今のまま放置していると、新しい事態が都市の中で起こる可能性に対して、さきほどの予知能力と対応能力との関連で、市民の防衛力、防衛能力みたいな形でまとめていくような力が非常に大事だと思うのです。石原都知事に言わせると、自衛隊は軍の発想で、すぐ銀座にタンク（戦車）を走らすわけ。あれは彼なりの演出だと思うけれど、またものすごい反感を食うわけね。反感を食うことによって、自衛隊が本来持つべき機能に対する市民の関心をかなりそらしている側面もあると思うのですよ。僕は「酒田大火」の本の中に書いているけれど、酒田大火は自衛隊と市民の関係の転換期になったのではないかと思います。その酒田大火の時の第6師団長の人にインタビューしたときに、僕は自衛隊の役割はそういうこともあるのだと思ったのだけど、亡くなられた竹中義男という人は、戦争中フ

イリピンで戦っていてアメリカ軍がどのように動くか、何処に射撃したらいいのか、彼は予知できたと言うわけですね。何故なら彼らはバナナの葉っぱ何かで偽装するでしょ。何処にどのように動いているとか、いつそこに陣地を作ったかは葉っぱの枯れ具合を見て分かると言うので、極めて予知能力があるわけですね。彼は常に定時ニュースを聞いて、経験からすると福島の前で3mの風だと、日本海の酒田だと10mの風だと。「出火しました」という、その一言をもってこれは大火になるというふうに予知して、それで自衛隊を出すように要請してくれと言っても皆せせら笑っているわけ。そんな大火になることは有り得ないと。事態が最悪になった場合にどういうことが起こりうるのかを予知することは、本当に経験と勘ですよ。それは指揮官として本当の能力の問題と思うのだけでも、それを予測して今打つべき手は何かということが見事に当たっているわけですよ。ところが消防や酒田の市役所は、あそこは自分の友人の娘の嫁ぎ先だが、それが燃えているとかそういう地域情報に関心を持って、それから火災が進んでいく進み具合の方に心を持ってそれが何処まで広がるのかや、それを何処で抑えたいのかなど、そういう発想がないわけ。そのようなことから自衛隊の発想と消防の発想は全然違ふと。消防と自衛隊だけではなく、市民と自衛隊の間にも常日頃協力体制がないといけないと思うのです。常日頃の安全や生活の快適性とか、何か非常に重要な事態が起こったときの、市民と自衛隊の協力関係を蓄えていく事だと思っております。そういうのを特に最近の課題にすればいいのではないかと。戦争がかつてほど起こる可能性がないとしたら自衛隊がいる存在感というのは、やはり市民の日常生活や安全が脅かされた時にきちんと守ることで、そのために市民と自衛隊や自治体がどういう協力関係にあるべきかというのは、自衛隊の将来を考える場合に非常に大事ではないかと思えます。

谷 自衛隊というのを身近に感じている人は非常に少ないでしょうね。そう言う意味ではね。

西山 一般の大学の先生は地震のシミュレーションを自衛隊とやろうという、また先走ったことをやっているというふうなせせら笑いますね。(笑)

谷 実は金沢工大と言うのは面白いところでして自衛隊の研究所から来ている教授とか、結構いるですよ。穴水に自然学苑というのがあって、そこで人間形成教育というのをやって、そこで船を漕ぐわけですけど、それをやるのは海上自衛隊の辞めた方で、結構自衛隊の話しというのは面白いかもしれませんね。そういう方は非常に問題意識を持っておられるから。

西山 先ほど首長に聞けと言ったけれど、自衛隊の人達にも聞くべきですね。特にぼくは自衛隊に対してもう少し彼らの発想そのものを市民の側に引き寄せるような、そういう努力を我々がするべきだと思いますけどね。

谷 いいですね。警察、自衛隊、消防あたりを全部インタビューしてみると面白いかもしれませんね。いいヒントをいただきました。タブー視して見て見ぬふりをするっていうのが一番悪いですよ。日本は役人が誤りをおこしてはいけないという前提でやっていますから。

西山 誤りはおこさないものだと。おこしても手続きを遵守しているから変えなくてもいいのだと。

谷 そうそう。だから誤りや災害や危機は起こるものだという前提で物事をやらないと、すべてうまくいかないですよ。だから日本はその辺りのシステムを根本的に変えないといけないと思っているわけですけど、もう1つぜひお聞きしたいのは今、警察の検挙率がものすごく下がっているでしょ。それから不祥事が多くあって、信頼が非常に失墜していますね。これ警察関係の財団からもらっているのが警察に提言したいと思っているのですが、どうしたらいいですかね。

西山 警察官自体が地域社会との関係を失っているような感じがしますね。かつてお巡りさんは子供心に怖い存在でもあったけれど親しみがあったわけで、今駐在をどんどん減らしているでしょ。社会の不安や安全を地域の最前線で感知するアンテナのような物だと思うのですよ。

谷 アメリカあたりでもコミュニティポリスといって常に巡回している部隊を作りましたよね。それから治安がよくなってきましたね。

西山 テレビカメラを付けて、犯罪を減らしたとかあるけれど、人とかパトカーが現場を動くことが第1ですよ。最近、いろんな人がうろろうろして何が起こるか分からない竹下通りでも警官見たことないものね。そういう巡回する必要性のある所さえやっていないような感じがしますね。それから警察官僚って国家公務員でいくと本当に出世するのが速いのですよ。完全に階層化して上下関係がはっきりしすぎて、たたき上げの人達が県警本部長になるなんて事思っていない。そういう人たちも、地方の〇〇市の警察署長になれることぐらいの可能性を開いておいてもいいのではないかなと思いますね。水平志向で上に上が

りたくなくて、地域に深く根ざしたいという人はそういう人たちで交番所や駐在所をやるような、そういう資格が必要ではないのですかね。警官の数そのものはそんなに減っているわけではないでしょ。

谷 それほど減ってはいないけども犯罪が増えている割には増えてないかもしれませんね。それと、セクハラだとかストーカーだとかそれまで警察が対応しなくてよかったことが、かなり対応しなくちゃいけなくなってきたでしょ。

西山 ここ5年くらいで検挙率って本当にさがっていますよ。

谷 重大事件で多いから国民もそう思っているわけですね。最初に犯罪が起こったときに物証はいっぱいあり、状況証拠もいっぱいある中で捕まらないということが多いので、非常に信頼を失墜していますね。

西山 世田谷の惨殺事件ね。幾つかの雑誌に犯人像が出ているけれども、警察の方からその後新しい情報でないものね。

谷 あんな突発事件が恨みも何もなくて、起こることが本当に狂気でしかなくて、しかし本当の狂気の犯罪っていうのは繰り返されるはずですよ。あれ一発だけで狂気の犯罪おこして、後に何にもしないで普通にしているというのも珍しい話して。

西山 昨日も地下鉄乗っていると、ぶつぶつ独りごとと言っている人多いと思わない。(笑)

谷 いますね。この時期になると暖かくなると出てくるのですけど。(笑)

西山 できるだけそういうのがあると逃げるな。それから、男性と女性って違いますよね。むこうから変なおじさんが歩いてきたりすると30mくらい前から完全に避けるわけですけど、うちの家内は知らん顔で行くからもっと状況を見て何が起こるか想定しながら歩けといつも怒っているのだけだね。

谷 一般的にうちの家内なんかもそうですけども、日本の女性は本当に危機管理能力ゼロですね。ちょっと話が逸れますけどね、こういう出来事があったのです。かなり何年も前なのですけども、近所のおばさんと家内が立ち話をしている、そのおばさんが犬(ポメラニアン)を連れていたのです。うちの息子が三輪車に乗っていて、犬がぎゃんぎゃん吠えているので私、遠くにいたので危ないなと思ったのですけど家内は立ち話に夢中で。

西山 犬は本当に恐くてね。私は山の獣道なんかをかなりのスピードで歩くの大好きなのだけど、ある日突然、猟犬が襲ってくるの。これは恐いよ。下の方で猟犬呼んでいるからそこで放してんのよ。これは意図的な犯罪としか思えないよ。特に若い女性は自分がいつも可愛がっているから放し飼いをしてそれで注意すると、僕に非常に無礼な態度で2,3人いっしょにいるとだと突っかかってくるよ。

谷 犬を飼う人のマナーって本当に悪いですよ。私も襲われたことがありますけどね。私は一匹で犬の習性知っていましたから、こうやって手を広げてそのまま後ろに下がりましたから、犬は吠えるだけでそれ以上は近寄ってこなかったですけども、後ろ向いて逃げたら噛まれていたと思うのですよ。

西山 僕はだからそれ以後、比較的人が少ないところは山岳用のトレッキング用の棒があるでしょ。自己防衛で持って入っているのです。

谷 あと一番大事なところなのですけども、安全をこれから取り戻すためにどういうことをするのが一番有効かお聞きしたいと思います。

西山 僕はいろんな事例を、市民に情報提供して市民に考えてもらうことしかないなと思うな。それも個別市民ではなくて、そういう安全が生活の基盤にあるということ、あなたの生命や、財産に関るということを地域として協力すると。安全というのは、例えば10人いると、横軸にAさんから順にナンバー1から10人にとって縦軸に個人の安全対応能力とりますよね。地域としての安全能力は何処で決まるかというと、だいたい一番低い人のレベルで決まると思うのですよ。一番低い人のレベルで例えば老人だとか、赤ちゃんだとかこれは他の人がサポートせざるを得ないわけで、だけど大の成人男性、大の壮年女性が非常に低いレベルであるとする地域災害対応能力、安全対応能力というのはそこで決まるとすればそれは非常に深刻な問題ですよ。だから個人が自覚でき、地域として集団として安全対応能力を持つようなことをきちんとやる必要があるのではないのでしょうかね。

谷 元科学警察研究所にいらした日本女子大の清永先生という方で、この間NHKの朝の番組で泥棒に入れない家というのに出ていましたけどね。私も同感なのですけど、あの先生と話していた時に、今の家づくりは完全に間違っていると。高い塀を作って、見えなくして、いかにもプライバシー守って泥棒に対しても防御固めているみたいけども、実は泥棒を招いているのだという話ありますよね。

西山 名古屋の我が家の方で、建築協定の会長やっていて、横の家が2階の窓をこれくらい開けていたわ

け。そしたら、てんてんと伝わったら塀の上について、それから電柱みたいなものでポーンと上にあがられるわけ。それで中に入って犯人がガサガサするものだから奥さんが上にあがろうとしたら犯人がそれを察知して逃げたけど、後姿を見ているわけね。その最悪の事態は殺人に結びつきますよね。それで、去年の秋に警察に行っているいろいろなことを聞いたら、そのころはピッキングだったわけだけど、全員がピッキングの対応をしましょうということでワンドア2ロックとかいろいろやったわけなのだけど、最近聞いたらガラスをガシャンと瞬時に割って向こうのカギまで破壊する技術とか、すごいらしいの。それからピッキングが駄目になってきたから、今度は堂々と破って入って殺人や放火まで行くような犯罪になってきている。おっしゃるような家自体を防犯的な面からいかに建てるようなこともあるのだけども、その他に大事なものは生垣とか樹木の配置の仕方、家の中がある程度他からも見えたり、外からも見えたり、それから樹木をあまり高くやらないとか、そういう建てた後の管理の問題もあるよね。

谷 実は私は昔から直感的に思っていて、我が家はこのぐらいのブロックの上にフェンスなのですよ。外から丸見えで、玄関も丸見えだし、隣からも、両隣はその後から建ちましたからそのままなのですが、裏はブロックで両側から丸見え。しかも犬いますし泥棒に1回も入られてないのですね。

西山 僕のところだけ入っていない。何でだと思う。あなたのところに入っていないのと同じ。

谷 同じことですか。

西山 あなたは工大の先生して何年目？

谷 5年目です。

西山 僕のところは昔から先生していたから生活が不規則なわけ。

谷 それは大事な事ですね。生活パターンが読めない。

西山 それが絶対あると思うし、比較的安全対策やっている。だから家庭を巡る犯罪というのも、もうすこし気を付けたほうがいいと思うね。

谷 今の住んでいる金沢の家は、人を感知してパッと付くぐらい庭につけていて、あとは玉砂利を敷いているのですよ。これは清永先生にもいいって言われましたね。

西山 確かに昔の強盗というのは入る前に必ずウンチをしてそれで犯罪している間に小便だとかウンチが出ないような形でやっていましたよね。それから犬の声にしろ、音に対して敏感ですね。

谷 あと光ね。

西山 これ非常に大事だな。

谷 あと、いろんな落書きとかを防止するために監視カメラを入れるっていうのが目立ちますね。元町商店街だとか歌舞伎町だとか、自治体がしていたり商店組合がしたりいろんなことをしていますけど、要するに監視社会になってくるわけですよ。そういうことについてはどのように思われますか。

西山 犯罪を防止するっていう意味では落書きっていうのは非常に見苦しいし、社会的コストは大変なものだと思うけども、少なくとも欧米で犯罪防止を特に街中でやろうとした場合、その監視カメラというのはものすごい効果があるようですね。日本でもある部分、犯罪的なことが起こりそうな所ではそういう監視型の管理体制を取らざるを得ないと思うのですね。

谷 最近、確か英国の幼い子供を小学生くらいの子が殺人したという事件がありましたよね。別名を与えられて出たっていう話ですけど。確か監視カメラに映っていたのですね。

西山 何度もテレビで放映していましたけど。

谷 だからそういうのはある程度やむを得ない。

西山 そういうコストも社会的コストとして必然であると思いますけどね。

谷 銀行のキャッシュディスペンサーには昔からカメラ付いていますよね。

西山 コンビニにもあるけれど、以外にコンビニの映像は鮮明でないようですね。

谷 それとカメラで監視するという以外に、人の目があるということが一番大事と思うのですね

西山 そうですよ。人の目というのは何も犯罪を防ぐとか、安全を守るということだけではなくて、お互いをよく知り合って、お互いが協力しながら、そういうプラス面がずいぶんあるわけでしょう。そういうプラスの面が欠けているからネガティブな犯罪だとか安全な面でも欠けている。そういう感じがしますけど。

谷 最近、歩くまちづくりというのがあちこちで言われているのですけれども、それは歩いて健康になると、車を使わないからエコだとかいうことよりも、もっと安全面で人がいっぱい歩いていると。例えば車で人とすれ違ってもまず憶えないですね。いたことさえ認識しないかもしれませんね。歩いてすれ違った